

(1) 県内各農協、農業者団体との意見交換について

資料3

1 趣旨

新たな「富山県農業・農村振興計画」の周知・PRするとともに、各地域の農業の現状と課題について、県内の**農業協同組合及び農業者団体**と意見交換を行った。

2 内容

- ・ 県内全15農協を訪問し、組合長や営農担当者等との意見交換（5月25日～8月2日）
- ・ 県青年農業者協議会、県農業者協議会、県農業法人協会、県企業稲作経営者協会との意見交換（8月4日～12日）

3 主な意見や課題

園芸生産拡大

- ・ 土壌条件が悪く（粘土質・排水不良）、園芸作物がづくりにくい
- ・ 大区画化、畑地化・汎用化が必要、支援してほしい
- ・ 畑地での連作障害を回避する研究が必要
- ・ 野菜の集出荷施設や残渣処理施設、規格外品の活用が必要

人材確保

- ・ 集落営農組合の人材確保が必要
- ・ 新規就農者は、園芸を希望する人が多く、水稻の担い手（法人従業員等）が不足
- ・ 若手農業者の研修の充実
- ・ 県外からの移住者や若手育成に農業未来カレッジ[®]は必要
- ・ 大学農学部等の教育機関の必要性

持続可能な農業・農村

- ・ 肥料のプラスチックフリー化に取り組みたい
- ・ 循環型農業を進めるには、耕畜連携の推進が必要
- ・ 用排水路での事故防止対策が必要
- ・ 中山間地の人材確保と鳥獣害対策
- ・ 人口減少により、今後の荒廃農地の大量発生を懸念

その他

- ・ 「5年間で一度も水張りされない水田は交付対象外」とする国の方針への対応
- ・ 肥料・飼料等価格高騰への支援

(2) 「富山県農業の将来を語る会」について

1 趣旨

新たな「富山県農業・農村振興計画」の主要施策である、①園芸振興、②人材確保、③環境対策について、先進的取組みの紹介と県内若手農業者を中心に、県内外の有識者や先駆的農業従事者等を交えた意見交換を行った。

2 内容

①園芸振興 (R4.8.29) <先進的取組み紹介>

(有)アグリゴールド 矢木	園芸導入で冬期雇用維持、女性の経営参画
(有)ワールドファーム	栽培から加工、販売まで一企業で行う 7~8年経験を積んで、独立就農や幹部社員に育成

②人材の育成・確保 (R4.10.14)

YUIME(株)	農業支援サービスで農繁期の人材確保
(株)マイファーム	体験農園や社会人向け学校など、就農をサポート
(株)おてつたび	人手不足の地域に、旅とアルバイトをマッチング

③SDGs・環境対策+DX (R4.10.28)

テラスマイル(株)	農業経営に必要な情報をデジタルに収集・分析する「RightARM」を提供
(株)スカイティクス	ドローン解析で、収穫時期、雑草、田面の高低差を把握
安心農業(株)	国際水準GAPを実践することはSDGsの達成に貢献

<意見交換における主な意見>

- ・園芸生産拡大には、畑作専用ほ場が必要では
- ・施設栽培では、耐雪ハウスの低コスト化の工夫
- ・産地で生産から一次加工まで行い、最終的に輸入野菜を国産に置き換えることが目標
- ・園芸の生産面積や品目の拡大には若い人の育成が重要

- ・人手不足に農業支援サービスを活用したい
- ・県外人材の受入れには、空き家などの宿泊施設が必要
- ・新規就農者と受入地域との意識にミスマッチがあると受入は成功しない。
- ・作業支援を継続することで、地域との信頼関係を構築
- ・「おてつたび」に不人気な地域は無く、地域の魅力を伝えることが重要

- (DX)・データ収集・分析・可視化を農業に取入れる必要
- ・データ入力は大変だが、農作業はルーチン化されており、データ選択や工夫により、省力化は可能
- ・収量等の向上につなげ、導入コストをカバー
- ・DXは農業のやり方を変える手段だが、自然、地域条件の違いをカバーできるか注視
- (SDGs・環境)・GAPの実践≒SDGsの達成を認識